

絶滅危惧植物を守れ

わたなべ 渡辺 一之さん
 おいぬま 小井沼 久史さん
 かずゆき 一之さん
 ひさし 久史さん

花々の案内板置き『自然の植物園』も演出

猛暑の8月初め、谷中湖を一望する展望台の斜面。これは「秋の七草」の一つで、今は準絶滅危惧種の「フジバカマ」です。手分けして草を刈り、つる草を取り除くと、花芽をいっぱい付けた群落が立ち現れました。

私、渡辺一之(写真上の右)は、遊水地を維持管理するアクリメーション振興財団の職員です。20数年前、遊水地内でも自生地が消滅しかけて、ここに移植しました。職員が守り継ぎ、台風19号での水没からも復活。この記事が載る頃は、淡紫色の花が鮮やかでしょう。

遊水地の植物は約一千種、うち絶滅危惧種が60数種と「宝庫」です。しかし、洪水や乾燥など異常気象、盗掘、獣害など、常に「危機」にさらされてもいます。財団では設立時の30余年前から、国の委託などを受けて草刈りや外来植物除去、動物除けの柵設置など、貴重植物の保全・管理事業に取り組んできました。

現状を、職員の私、小井沼久史(同左)がお話します。対象は10数種。春のヨシ焼き後の芽生えから結実まで作業は年間約70日。生育状況の調査研究も続けています。この結果、ノジトラノオなどは自生地が保たれ、



また減少の危機を脱しつつある植物もあります。

それらを可能な限り広く見てもらう工夫をしています。子供広場では毎年、保全した場所にホソバオグルマが咲き、「絶滅危惧種の花畑」(写真下)が出現します。名前や豆知識を記した「案内板」を季節ごとにあちこちに設置。各自治体も保全活動に熱心ですので、併せてたどれば『自然の植物園』が楽しめます。植物観察会も開いています。同財団(☎0282-62-5558)。



For 愛する家族 誰のために つくるのか?

家づくりがもって 愛おしいものになる。

MARUWA 丸和住宅
 J Y U T A K U

お電話でのお問い合わせは マルワ ヨイイエ
 ☎0120-08-4118
 受付時間: 9:00~18:00 定休日/毎週火曜日・水曜日
 住所 〒328-0043 栃木県栃木市境町23-26

丸和住宅